



「大隈重信と佐賀」知られざる大隈 その④

令和3年1月10日（日）、大隈重信侯100回忌を迎えるにあたり、5回にわたって大隈重信侯に関する紹介文を連載します。

大隈^{はちたろう}八太郎は新政府に出仕した頃、名前を重信に変えます。ただ後に「自分は八太郎という名が一番好きだ。」と漏らしています。

大隈の最も特異なエピソードは、何と言っても字を書かないことでしょう。

どうして書かなくなったかは判然としませんが、一説によると、大隈は弘道館で学業は抜群でしたが、教師に文字のうまさはそれ程でもない事を友人と比較されたことから、字を比べられないために一切字を書かなくなつたと言われております。このようなことで一生書かなくなるとはなんと頑

固なことでしょう。それで

は大隈の字はそれ程下手かというところ、大隈の字を見たことのある犬養毅^{いぬかいつよし}や市島謙吉^{いちしまけんきち}は「大隈さんの字は立派なもの」と言っています。

（続く）

（大隈重信記念館館長

^{えぐち}江口直明^{なわあき}）



▲大隈侯が使用したとされる硯^{すずり}